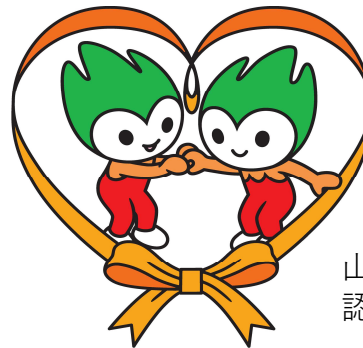




令和7年度認知症セミナー

山口県の認知症施策について

～ ご本人とともに、本人視点の施策を推進 ～



山口県PR本部長「ちよるる」
認知症施策【支え合いリボン】

山口県健康福祉部
長寿社会課地域包括ケア推進班¹

山口県の概況



推計人口：1,281,000人（全国28位）

高齢化率：35.5%（全国6位）

（令和6年10月1日時点）

県内市町数：19市町

地域包括支援センター：61カ所

認知症地域支援推進員：107名

認知症カフェ：118カ所



「第八次やまぐち高齢者プラン」

山口県の高齢者施策を総合的、計画的に推進するため、新たに、今後3年間の本県の高齢者保健福祉推進の基本となる「第八次やまぐち高齢者プラン」を策定。（令和6年3月）

- 計画期間 令和6年度～令和8年度
- 数値目標 36指標

県長寿社会課ホームページに掲載中

第八次やまぐち高齢者プラン

検索



山口県における認知症施策体系①

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望をもって、できる限り地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現するため、**認知症の人やその家族の視点に立った支援の充実や環境・体制づくりを推進**

(1) 認知症に関する理解促進と本人発信支援

- **やまぐち希望大使の設置・運営**
- 啓発活動の実施(9月)
- キャラバン・メイトや認知症サポーターの養成・資質向上
- **認知症の本人からの発信支援・本人ミーティング・本人視点での施策の推進**

(2) 認知症の予防及び容態に応じた施策の推進

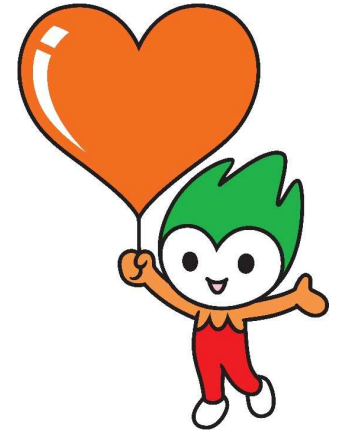
- 早期発見・診断・対応
 - ・ 医療・介護従事者向け認知対応力向上研修の実施
 - ・ オレンジドクター制度の運営
- 認知症の初期から後期までの各段階に応じた良質かつ適切なケア
- サービス提供体制の充実・強化
 - ・ 認知症疾患医療センターによる早期診断等の環境整備
- 地域の実情に応じた医療・介護サービスの円滑な連携



山口県における認知症施策体系②

(3) 若年性認知症の人に対する支援

- 若年性認知症相談支援窓口の運営(県立こころの医療センター)
- 圏域内の支援ネットワークを推進するための研修会等の開催
- 認知症カフェ等を活用した本人の集い(居場所づくり事業)、若年性認知症の人に関わる支援者の養成



(4) 認知症の人や家族が希望をもって暮らせる地域づくり

- 認知症の人の地域生活をサポートするチームづくり活動(チームオレンジ)の設置の推進に向けた取組
- 認知症地域支援推進員等を中心とした社会参加の促進に向けた市町の取組支援
- 市町が実施する認知症カフェ等、取り組みが継続できるよう情報の発信

【山口県】「やまぐち希望大使」 5 名委嘱（令和5年8月25日）

認知症本人大使「やまぐち希望大使」委嘱状交付式を開催

■自分らしく、いきいきと
前向きに暮らす姿の発信を



令和5年8月25日に、山口県では初めての委嘱状交付式を開催し、県内在住の**5名の方を認知症本人大使「やまぐち希望大使」に委嘱**しました。

委嘱状を交付した村岡嗣政知事は「今後、さまざまな活動に協力いただき、希望大使の皆さんの活躍が人々に勇気と希望を与え、県内に明るい共生の輪が広がっていくことを期待しています」と挨拶しました。

県では、認知症の人やその家族が希望をもって暮らせるよう、認知症に関する社会の理解を深め、本人や家族の視点を重視した地域づくりを推進するため、認知症の人本人からの発信を通して、広く県民の理解促進を図り、**認知症があってもなくても同じ社会の一員としてともに暮らせる地域づくりを推進**しています。希望大使の皆さんには、今後、県や市町等が行う普及啓発活動にご協力をいただきます。（担当課：山口県長寿社会課）

「やまぐち希望大使」 設置・運営の歩み

- R1年～ 本人の意向を大切に、本人発信活動を支援
- R4年10月 19市町に意向調査
- R5年 4月 設置要綱、推薦要領制定
- (4/21～5/19) 関係機関へ推薦依頼
①19市町、②認知症疾患医療センター（8箇所）、③家族会（2団体）
【推薦結果：候補者6名（①3名(2市)、②2名(2箇所)、③1名）】
- R5年 6月 被候補者の面談
- R5年 8月末 やまぐち希望大使委嘱式（5名委嘱）
やまぐち希望大使等派遣事業開始
- R5年11月～ 希望大使の動画撮影
- R6年 2月 第5回山口県認知症カフェサミット
(希望大使紹介、メッセージ動画を公開)



R5～ やまぐち希望大使等派遣事業

市町や市町が支援する認知症カフェ等が実施する啓発事業や研修会、ピアサポート活動に認知症の人を派遣し、各地域における認知症の人の視点に立った施策と認知症当事者の社会参加の促進を図る。

<活動内容>

- (1) 市町が行う普及啓発活動への協力
 - ・普及啓発イベント等への参加・協力
 - ・普及啓発教材への助言
- (2) 認知症サポーター養成等への協力
- (3) 市町又は認知症疾患医療センターが行う地域づくりに関する取組への協力
 - ・地域づくり(人材育成)に関する取組への協力
 - ・認知症サポーターステップアップ講座への協力
 - ・チームオレンジ活動の促進への協力
 - ・市町が支援する認知症カフェ(繋がりの促進)認知症疾患医療センター(診断後支援)への協力
 - ・本人ミーティングの活性化等に向けた協力
 - ・認知症ケアパス作成等への意見

要件

- ①県内在住の認知症と診断された者
- ②自身の思いや考えを伝えること等を通じて、ともに地域づくりに参画していく意欲があり、県に協力できること

※ 活動はご本人の希望や体調により、無理のない範囲で行います。

やまぐち希望大使

検索



<希望大使の活動例 ①>

講演会や研修会で 体験等を話す



希望大使が自分らしく暮らす姿や思いを発信

⇒ 参加者の声「元気が出た」「イメージが変わった」等



<希望大使の活動例 ②>

認知症カフェに参加 活性化の支援

希望大使の存在を知り、対話を重ねる中で、
参加者同士の交流が深まり、場が活性化

⇒ 地域の仲間との出会い・新たな取組につながる





R5年10月18日
山陽小野田市講演会

大勢の前で
初めてのチャレンジ！

R5年11月7日全国希望大使交流会議
(@東京都)



本人発信の活動



R6年6月30日
オレンジパワー活用セミナー
(@山口県健康づくりセンター)



やまぐち希望大使等派遣事業 R5～R6利用実績

■ 派遣事業 実績

窓口：認知症の人と家族の会山口県支部

項 目	依頼数		派遣回数		希望大使		ご家族		支援者	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
(延べ実績)										
認知症講演会・研修会の講師	3	6	2	6	2	5	1	5	1	1
認知症サポーター養成講座の講師	2	2	1	2	1	2	1	2	0	0
認知症カフェの活性化支援	2	6	2	6	2	6	2	6	0	0
普及啓発活動への協力 (機関誌作成・インタビューなど)	8	3	6	3	6	3	5	3	1	0
その他(SOS模擬訓練、RUN伴など)	1	4	1	3	1	3	0	3	1	0
合計	16	21	12	20	12	19	9	19	3	1

活動には、
ご家族や支援者
(伴走者)の
サポート、
皆様の応援が
必須

■ 派遣依頼元 (実)

※本事業以外に、近県（広島県・岡山県）からも派遣依頼あり

依頼元	R5	R6
市町（全19市町）	3	7
認知症疾患医療センター（全8か所）	1	2

～ 市町担当者の声 ～

- ・ 本人同士の会話の持つ意味合いや大切さを感じた。
- ・ 本人発信が認知症観の転換に大いに影響している。
- ・ 周囲のサポートを得ながら、診断後も趣味や活動を継続できることが伝わったように思う。



【感想・様子】 認知症本人や家族・支援者からの発信による効果

■ 一般県民の感想

- ・「(本人より)優しさの中におらせてもらう。優しく接してもらえる、それが嬉しい。」そういう居場所でないといけないと思う。目の前が明るくなった。自分らしく生きていけるのだと思った。
- ・実際、家族だったらきれい事ばかりでは済まないが、その中で、少しでもストレスが少なくなり、前向きに生活できるように私自身も頑張りたい。家族の寄り添う姿勢が素晴らしい。優しい気持ちになった。

■ 支援関係者の感想

- ・「私、認知症」と言えるすごさに感銘。温かい気持ちになり、元気をもらった。希望がわいてくる。
- ・認知症の方へのイメージが大きく変わった。全てができなくなる、分からなくなると思い込まず、その人が出来ることを伸ばしていくことが生き生きとした生き方をサポートする上で大事。
- ・認知症になっても幸せな時代になってきたという言葉が印象に残った。そのように言ってもらえる市町にすることが大事。
- ・家族、行政の関わり、本人が前向きに生活役割を持って生活できるコミュニティがあることが大切。

■ 認知症カフェでの交流の様子

- ・交流を通して、自身の家族のことで相談する方も見られた。本人や家族と直接やり取りができることにより、発信だけでなく、ピアサポートの役割を兼ねることができると感じた。

- ・お互いが元気になり、希望の良循環へ ⇒ 余波が広がり地域が活性化、新たな連携・取組へ
- ・古い認知症観から **新しい認知症観へ（意識の変化）** ⇒ 認知症への関心・対応力が向上
- ・同じ目標（目指すべき方向性）を共有「認知症になっても自分らしく暮らしたい」「ともに暮らせる地域に」

本人ミーティング（みんなの家）

R2～

認知症と診断された本人のための集い
自らの体験や希望、必要としていることを
語り合い、一緒に楽しみ、話し合う場

開催状況

年 4 回



委託先

認知症の人と家族の会山口県支部

令和7年度 集い、語ろう！自分たちのこと！

本人ミーティング「みんなの家」

認知症と診断されたご本人のための集いの場です。

「みんなの家」とは、認知症の本人が集い、本人同士が主体となり、一緒に話し合う場です。

「仕事のこと」「家族のこと」「収入のこと」「将来のこと」など、自分たちの体験や希望、必要と感じていることを話し合い、より良い暮らしの実現や、暮らしやすい地域の在り方について、共に考えていきましょう。



【対象】認知症と診断されたご本人

※ 同日「家族の集い」も行います。ご家族の参加もお待ちしています。

【日時】＊ 時間はいずれも 13:30～15:30

- ① 令和7年 6月28日(土)
- ② 令和7年 9月 6日(土)
- ③ 令和7年10月 未定
- ④ 令和8年 2月 7日(土)

参加希望の方は、裏面の申込書で
FAXによりお申し込みください。
皆様のご参加をお待ちしています。

【場所】CAFÉ ふしの（山口市矢原 997）



【申込み・問い合わせ先】
認知症の人と家族の会山口県支部 事務局
TEL: 083-925-3731

【その他相談先】
山口県若年性認知症支援相談窓口 担当：石原
TEL: 0836-58-2212 FAX: 0836-58-6503
山口県長寿社会課地域包括ケア推進班 担当：鯨田
TEL: 083-933-2788 FAX: 083-933-2809

「家族の集い」も
同日開催しています

若年性認知症カフェ

開催状況

年 4 回



R6年9月9日
In 岩国（松がね）



R7年2月2日
In 柳井（みどりが丘図書館）

委託先

認知症の人と家族の会山口県支部

若年性認知症の人のための CAFÉ ふしの

山口県若年性認知症の人の居場所づくり推進事業



日 時：2024 年 7 月 15 日（月・祝）

13：00～15：00

場 所：カフェふしの（山口市矢原 997）

参加費：100 円

みんなで集える「憩いの場」です。
一息ついて、日ごろの想いを語り合
いながら、ゆっくり過ごしましょう。
お気軽にお立ち寄りください。



カフェふしの地図



こののぼりを目印に
お越しください！



公益社団法人「認知症の人と家族の会」山口県支
部
〒753-0813 山口市吉敷中東 1-1-2

※裏面の申込書で申し込みください。

オレンジパワー活用セミナー（内容）

	講 義 等	グループワーク
第 1 回 (5月)	○認知症の本人の視点に立った施策について学ぼう 講演「本人の声を活かした小さな改善や 取組を実践しよう」 講師：認知症介護研究・研修東京センター 永田 久美子 副センター長	①パートナーの強みや素晴らしいところ ②自分の強みや自慢できるところ ③講義を聴いて、今後大切にしたいと思った点 ④今後、やってみたいと思ったこと
第 2 回 (6月)	○活動紹介（前年度受講者による活動報告） ○本人の実際の声を聴いてみよう ～小さな改善や取組の連鎖を作り出そう～ 若年性認知症の人からのメッセージ ※ご本人から診断前から現在に至る経験や思いを発信	①今後の活動で、大切にしようと思ったこと ②やってみたいことを具体的に考えてみましょう 目指す姿・いつ・どこで・ 誰と・どのように・・・
～ 実践 ～		
第 3 回 (12月)	○実践からの気づきを共有しよう 実践した活動についての紹介等	活動に対して認知症の人からのメッセージをいただいています！
取組を「活動紹介集」として県ホームページへ掲載		

オレンジパワー活用セミナー（現状）

オレンジパワー活用セミナー

～認知症の本人の視点や活動を活かすための講座～

〈概要〉

「本人視点を活かした施策の重要性」等を学び、認知症の人本人の声を聴き、日ごろの面接やカフェ活動など、何か一つでも実践を試みる。

※ 3回コース（2人1組で参加）

〈参加者の声（アンケートより）〉

- ・ご本人の声を聴き新たな気づきや発見、そして課題を見つけるきっかけとなった。
- ・ご本人の声を聴き、発想が広がりました。
- ・ご本人の声を聴くことで地域を開拓していくこと、地域の人の方を付けることにご本人の力がいかに有効か改めて気付くことができた。
- ・自分たちだけでは、できることが限られるので多くの人の力を活用する、巻き込むことが大切

本人の声・視点



事業展開

居場所づくり
本人ミーティング
サポーター養成講座
認知症カフェ
認知症の人の声の「見える化」
普及啓発活動
（言葉や歴史を残す・伝える）

本人の声や視点を中心に事業展開
⇒ともに暮らす地域づくりにつながる

ご本人の声や視点を中心すると、すべての活動や事業展開が繋がっていく！

オレンジパワー活用セミナー（活動報告紹介）

本人の声を生かしたクッキングの企画 TeamHappy（チームオレンジ）×美祢市市民福祉部福祉課

〈活動内容〉

年2回実施しているクッキングで本人の声を生かした内容を企画

〈目指したこと〉

- ・ 本人を含みみんなでメニューを決める。
- ・ 本人・家族・スタッフみんなで役割分担をして協力して調理をする。
⇒本人にできることがあると実感してもらう。

〈参加者の反応・変化〉

- ・ 「おいしい」と喜んで食べられ、笑顔が多く見られた。
- ・ 自宅以外の場所では不穏になる本人が、一緒に調理ができた。
- ・ 本人がほかの人に声をかける、率先して作業を行うなど自主的な一面が見られた。

〈やってみてよかったこと〉

- ・ 本人の日頃見られない積極性、意外な一面を見ることができた。
- ・ 今までの活動では気づけなかった本人の得意なこと、不得意なことが見えた。

〈開催におけるポイント・注意点〉

- ・ できるだけ本人にやってもらい、本人に「できることがある！」と自信をもってもらう。

〈これから〉

- ・ 認知症があってもなくても同じ社会の一員として、笑顔いっぱい生活できるように共に活動していきたい。



認知症の本人・家族のコメント

- 【ご本人】好きな作業をやっていいですよ、と言われるほうがいいな。
- 【ご家族】「本人の気持ちを聞く」と言いながら、誘導になっているのではと感ずることがある。誰もが楽しいと感じることが大事だと思う。

ご本人とともに取り組むことの意義・必要性

1

認知症の人本人だからこそ伝えられることがある

2

本人の声や視点を中心にする

すべての活動や事業展開がつながる

3

本人に注力すると波及効果大きい

- ・ 「認知症になってからも自分らしく前向きに暮らしている姿」は、他の認知症の人に希望を与える。
- ・ 本人の声や視点を中心に施策を進めていくことで、一貫した取組を行うことができる。
- ・ 認知症の人の思いを本人が語ることで、新しい認知症観の周知につながるとともに、認知症に関する社会の誤解を変えるきっかけとなる。

山口県の認知症施策における課題

■ 「新しい認知症観」の地域への浸透は道半ば

広く一般県民に「新しい認知症観」が浸透しているとは言いがたく、希望大使派遣事業等を通じて、今後も地道な啓発が必要。

■ 特定の希望大使に活動が偏っている

言葉での発信が得意な特定の大使に派遣業務等が偏っている現状がある。希望大使の希望や体調に合わせ無理のない範囲で活動できるよう、体制を整える必要がある。

■ 企業及び労働部門への働きかけが十分でない

特に若年性認知症の人にとっては、経済面・雇用は大きな課題であり、認知症に関する労働部門への理解促進と支援体制の充実を図る必要がある。

■ 若年性認知症の人がピアサポートへつながりづらい

若年性認知症ならではの悩みや不安を共有するピアサポートの場は設けているが、つながっていない人が多数いると考えられる。若年性認知症カフェの周知や個別のアプローチが必要。

＜希望大使や関係者の皆さんの思い＞

私達の思いや認知症について、もっと多くの人に知ってほしい。

認知症の人は何もできないのではなく、周りの人に支えてもらってできることもある。

認知症の人や家族に優しい地域づくりのために、これからも協力していきたい。

**ご本人とともに、認知症の人や家族に
やさしいまちづくりを 一歩ずつ進めていきましょう！**



最新「やまぐち希望大使」メッセージ動画

「やまぐち希望大使」のメッセージ動画を作成しました。
希望大使の活動の実際や「新しい認知症観」を
知っていただく機会になりましたら幸いです。

皆さんの思いが詰まった動画です。ぜひ、ご覧ください！

■ タイトル

認知症とともに希望を持って暮らせる社会に
～やまぐち希望大使誕生から1年～

■ 最新版を県ホームページに掲載

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/49/246192.html>

■ 令和6年度版 URL

<https://youtu.be/AX0ti2kCrlg>（通常版：16分50秒）

<https://youtu.be/NPTtyRBLkCE>（ショート版：5分30秒）



山口県PR本部長「ちよるる」
【リボン&ハート】



ご清聴ありがとうございました。



山口県PR本部長「ちよるる」
認知症施策【リボン&ハート】